

令和7年度富山市民学習センター運営協議会 会議録

1. 日時 令和8年2月24日(火) 14:00~15:40
2. 場所 富山市民学習センター4階 講義室1
3. 出席者 委員
藤田公仁子、木本秀樹、堀川教世、大島麻美、奥野美友紀、大西宏治、
岡田 茂、田嶋詩賀子、永井由記
事務局
大久保秀俊(市民学習センター所長)、備後淳一(市民学習センター次長)
講神由美(主査)、河村有華(主事)
4. 資料 「令和7年度市民学習センター事業等について」
施設概要、事業概要、年間事業、市民大学開設事業、
生涯学習の啓発事業、市民大学受講者の構成、
市民大学受講者数等の推移、受講者アンケート集計結果
「令和8年度市民学習センター事業計画案について」
スケジュール、令和8年度富山市民大学の概略、
2026 富山市民大学要項・学習日程
「その他」

5. 次第

- ・ 開会
- ・ 出席者紹介
- ・ 会長挨拶
- ・ 議事
(議長：藤田会長、資料説明：事務局)

藤田議長 事務局からの説明につきまして、質問やご意見がありましたらお願いします。

堀川委員 アンケート18について、自分の人生をより豊かにするとの回答が多いことから市民大学の役割が重要であると分かります。受講者が定年退職の60歳を過ぎると受講するという流れは、過去から変わらず続いていることなのかお聞きしたい。

事務局 毎年受講者の平均年齢をデータで取っておりまして、ここ近年の平均年齢は72.8~9歳ということで、やはり高齢の方が受講していらっしゃいます。講座は平日の日中が多いため、受講していただける方となると、日中お仕事を持っていらっしゃる方はなかなか難しく、この傾向は続いているものかと思えます。

堀川委員 少子化で労働人口が減っています。高齢者も働く時代となり、更に受講者層が高齢化するかと思ひ、質問しました。

もう1点、先ほど理工系の講座の話がありましたが、アンケートを見ると、基礎的で分かりやすい講座の提供とあります。富山大学さんでも、そういう講座をされていますが少し敷居が高い。そこを和らげる意味で、できたら市民大学の方で、更に基礎的な講座を開催してもよいかと思ひます。

藤田議長 リピーターが増えていくということは、年齢が上がっていくことにはなりますが、その中でも市民大学の場合は新規受講者の開拓が上手くいっており、新規の方をこれだけ獲得しているのは全国的にも珍しいです。ちなみに1番高いのが市民大学、次に県民カレッジ、富山大学の順になっております。

専門的な講座については、学んだ方がもっと詳しく知りたい、という力が人間にはあり、その中でどのように地域の中で連携を図って市民に提供していくか、今後のネットワークで求められるところです。

奥野委員

72歳が受講平均年齢であったとして、若い世代が高齢になったら、学習するかと思うと、昔なら図書館や書店に行こう、専門的な知識や経験を持つ人も仕事によって学習していこうとしていました。ですが今は、ショート動画で見る、それも2倍速で見るなどで学習ができてしまうところがあります。

例えば、楽譜を読めないけれど、鍵盤通りに弾いてくれる人がいるからそれでやろう、編み物をしたいけど実際わからないから、拡大してくれるものをみよう。そうやって、無料で（実は無料ではない色々なものと引き換えなわけですが、）情報や知識を得られると思っている人を市民大学に将来取り込むことができるかどうかが今後の課題です。市民大学で教えている講師の方々は、専門的な訓練を受けてきているので、少し教えただけで、視聴者ができるとかそういうものでないというのがありますし、受講者も、自分たちでわからない物の見方っていうのがあるんだな、或いはアウトプットするときに、分かりやすく示しているだけで実はそこからぼれ落ちている部分もたくさんあるんだなと分かっているようです。

また、皆さん関心あるところを受けに来られると思いますが、何に関心があるかは本人が分かっている部分もあると思うのですが、実は知らないかもしれないというところをもう少し開拓してみたいかでしょうか。

例えば、歴史系、まちづくり富山というテーマで色々な先生方が講師をされている。私は「江戸時代の文学を読む」コースを担当していますが、学生時代に戻ったようだと言うことがあります。学校へ行くと、例えば中学校だったら、数学、理科、歴史、地理、音楽、美術、体育、家庭科もあれば給食時間があったみたいに、10回シリーズで、それぞれのいいとこどり。体を動かすのが苦手な人も、自分のペースで体を動かして楽しいと思われるかもしれないし、歌なんてとてもと思っている方でも、上手ですって言われたら、楽しいし健康にいいかもと思ったり。或いは歴史は暗記しなきゃいけないと思っていた人が昔の人はいろいろ考えていたんだな、何か自分で決めて、この講座は私が興味あるからやりたい、こちらはいいですつというふうに言うのではなくて、事務局から、いいとこどりでいろんなものを提供して、意外と楽しかったから来年度この講座を受講してみようかみたいなことがあるかもしれない。

このように、アラカルト的な講座の展開をもう少しテーマを広げて、もう一度学生気分みたいなイメージでできたら良いかと思いました。

事務局

今年度新規コースの「書に親しむ」の初回に同席したところ、講師が全員に、なぜこのコースを受講したか聞いたところ、ある受講者が、「書道というと堅苦しいが『親しむ』という言葉があったので、そんなに高いレベルは求められないかな」とおっしゃいました。また別の方は、「実は小学校以来、筆は握ったことがない。できれば祝電や祝儀袋、香典袋に自分で書きたい。小学校の気分に戻って、もう一度やってみたい。」ということでした。堀川委員の話にもありましたが、60歳でなく65歳に、もっと受講開始の年齢が上がっていくのかなど。その年齢になったときに、何かしたいことが欲しいのではないかと思います。例えば、歴史に思い入れの強い方もいらっしゃいますが、市民大学の受講者は何かやってみたい、小学校以来の筆を持ってみたい、くらの動機で受講されていいかと思えます。もっと昔に戻りたい、もう一度学生になりたい、20代に戻って料理を勉強したいな、そのような講座の研究や探求が私たちの役目かと感じました。

藤田議長

やはり学びにどうやって気づくか、その一歩をどう見出すのか、バラエティのある学習機会をどのような形で提供できるかだと思います。目的意識がある人は事前の下調べなど色々されるが、先ほどの書の話は私も講師の方と直接話す機会があり、詳しく知りたい、上手になりたいという人もいるけれども、それより何か懐かしいな、筆に触れてみたいな、墨の匂いを嗅ぎたいなという人もいらっしゃる。その方が続けていくと、見事な作品ができる。展覧会を見られて色々な感想をおっしゃられる、そのように学びの扉を開くんですね、と話されていました。きっかけ、学びの裾野を広げていくという役割、触れるような講座、一歩踏み込むような講座をどういう形で提供していくかを考えていくことも大切になっていきます。今後何を求めているか協議会で協議したり、実際の受講生と接している事務局スタッフがどのような講座が欲しいとの生の声を聞いて続けていくことが責務となります。奥野委員からの学習者の目線も大事なご意見をいただきました。

大西委員

講義会場への来場手段の約半数が自家用車とあります。今後、平均年齢が上がると、80歳を超えて自家用車で市民プラザまで来るのはなかなか難しい問題だと感じています。皆

さんどの駐車場を使われるか。市民プラザの地下だと、駐車のリットが小さいので、駐車できるだろうか。誘導する駐車場、例えばグランドパーキングとかにすると多少広いので、少し歩いても健康になりますよ、というのができるかもしれない。本来なら公共交通で来ていただきたいところなので、公共交通の場合はこのように来てはどうでしょうかという提案をそれぞれ個別にできるか、例えば10回の受講中4回は自家用車で来るけれど、あとは公共交通で来ましたとか、天気によって変えました、誰か送ってくれる日があるなど。どの手段で来るかのモードを変更させてあげられるような、何かきっかけになる取り組みがあるといいなと感じました。このままだと、皆さん会場に来ることができなくなるのでは、と不安を感じてこの数字を見ておりました。

事務局

ご意見ありがとうございます。

主にバス路線の廃線の関係で、来ることが難しくなったという受講者の声も聞いています。以前からいただいていた声になりますが、65歳以上の方で、お出かけ定期券を使って郊外から来られる、その適用になる時間帯があるので、9時半開始を少し遅らせて欲しい、というお声もいただいています。一方で、従来通りでよいという方もいらっしゃいます。大西委員ご提案の自家用車でお越しの方がたまには公共交通で、と気付くきっかけになるようなことは、来年度の講座で案内できるか考えてみます。

藤田議長

時間を30分遅らせるのは大きいですね。

お迎えの方を気にされていて、終わりの時間の厳守はどこの講座でも聞こえてきます。公共交通も不便になってきているため、そこを考えることは大事な視点の1つですね。

田嶋委員

公共交通機関については、私の住んでいる地域は、昨年までは直通があったのですが、バスの改定があり、富山駅止まりになりました。乗り換えか徒歩で30分行くか。それも楽しい旅にもなりますが、高齢化が進むこの時代、公共交通利用の機会が減るのは、どうしたものかなと私自身思います。

私は、短歌と漢文コースのほかに、1月の特別講義を受講しました。雪が多い時期で不安でしたが、とても楽しかったです。特に大博覧会の話が面白かったです。学芸員の話と資料、その時代のビデオの放映など、特別講義のこの機会はとてもよいと思います。次に何を学びたいかにつながって、色々なものを知る機会があるのはとてもよいです。

受講料改定について、今のどの講座の講師もものすごく魅力あると思います。市民大学祭のパネルを見まして、どれを見ても受講したくなりました。どの講師も魅力ある先生だと思うので、「より魅力ある講師」は何をさすのでしょうか。今の講師が「より長く続けてくださるように」でもよいかと思っています。

事務局

田嶋委員のおっしゃる通り「より」は必要ないですね。魅力ある講師を確保するためです。今年度の講師は来年度も引き受けていただく予定です。ただ、県民カレッジや富山大学など重複して引き受けてくださる講師も中にはいらっしゃるため、講座を充実するために講師の力が偉大で、市民大学に確保するためには謝金のアップは大事なことです。

田嶋委員

例えば「より」ではなく、「これからも」のような優しい言葉でもよいと思います。

事務局

はい。その通りです。

大島委員

奥野委員のアラカルト的に試すことはいいなと思います。私の担当する日本画はちょっと難しい、入りにくいと思われがちですが、色々試すとわかります。小学校以来初めての人もすばらしい作品を作る。洋画と日本画、彫刻ともまた違いますが、技術的には一緒の部分もあって、色んなものをかじってみて、できるかなと感じてもらおう。少し聞いて無理ではなく、そのようなきっかけで始められると、より受講者さんが広がるのではないのでしょうか。

駐車場についてですが、日本画は道具があるので、自家用車で来るか、送っていただくかですが、市民プラザの駐車場は狭くて、高いですね。荷物を出すときも、ぎりぎりでドアが開かないのです。絵具やスケッチブックを持って来るとなかなか出し辛いというのはよく聞きます。近くに他の駐車場もあるんですが、そういったところも提案していただくとよいかと思っています。

藤田議長 この駐車場問題は、受講者に限らず、講師の方もご苦労なさってるとお聞きします。今後に向けて記録に残すことも大切です。

永井委員 私は、7年間市民大学でお世話になっています。1つを極めたい人もいますが、私は7年間で10コースを受けました。どれも充実していて、再度受講したい講座もたくさんありますが、なかなか自分の取れる時間と合わなくて残念です。来年度の要項を見ますと、どれもやってみたい、聞いてみたいと迷います。県外の友達は、自分の自治体には市民大学のような場がないから、富山はいいね、と言われます。エキスパートの先生に安い値段でこれだけの内容を教えてもらえるということはなかなかないですね。

駐車場についてですが、私が住んでいる地域からは100円バスはありますが、まだあるだけよいです。バス路線がなくなってきておりますし、普通だと片道460円かかります。時間を考えると自家用車で通い、近隣に駐車し、百貨店で買い物をして帰宅しています。7年間市民大学に来て、得たものも多いです。

また、学友会常任委員会の編集部会を担当し、けやきで「学びの輪」という記事を作っています。受講者の声の中には、生きがい、受講して良かったとの声が多いです。この先も市民大学が続いていけばよいです。ただ、今年度の春に学友会入会を誘うと、高齢の方が多いため、講義に来るだけで精一杯と多数から言われました。やはり交通手段、時間等課題はあるなど感じています。

藤田議長 学友会の中で、学習者同士が縁を築く、学習縁と言いますが、ネットワークが本当に大切で、それを築きあげてきたことは、市民学習センターの特徴です。一時盛り上がり、下火になっているところも全国的には多々あるので継続しているところは素晴らしいです。

岡田委員 学友会の役員をする立場から、少し現状の課題等を話したいと思います。

学友会は親睦と交流、自主的な活動による学びの充実を目指しております。市民学習センターの方々には協力、ご理解や助言をいただき本当に感謝申し上げたいと思っております。

現在の課題は3点あります。1点目に、会員の組織率の低下が顕著です。以前は80~90%あったのですが、コロナの頃から受講者が減ったことをきっかけに毎年約10%減っています。今年度は私たちのやっていることがいかに大切かと訴えて、何とか昨年と同じ約50%の現状維持に踏みとどまりました。2点目に、役員の成り手不足です。成り手の高齢化が進んでいることもありますが、講義を受講するだけで精一杯で、とても役員などなれないという声を聞いて、困っています。3点目に、我々この活動を全て紙ベースで実施し、チラシを紙で配ったり、デジタル化は全く進んでいない状況です。市の色々なデジタル化は進んでLINEなどに乗っかりたいなという思いはありますが、やはり壁があり、任意団体ということもあり、なかなかその中に入っていけないような現状ではあります。できれば、募集やチラシをデジタル化したいです。

それから、学友会に受講者の色々な声が入ります。その中でお願いが2つあります。1つ目は希望の講座に入れない、という人が一部いらっしゃいます。2年連続抽選で落ちたが、どうしたら入れるかと相談を受けました。厳正な抽選のため、私たち役員でも、役員をしているから入れるということもないです、とお話しています。希望した第1希望の講座にできれば入っていただけたらなという、私たちの思いがあり、定員超過して受け入れているのも分かっているのですが、コロナ禍のピークも過ぎている現状で、できるだけたくさん受講できるようにして欲しいです。定員をもう少し増やす工夫や、曜日の工夫があれば、是非お願いしたい。2つ目に駐車場の問題ですが、会員からすると、駐車料金が高いです。周辺も高くなってきています。受講料は1回300円、これからは350円、駐車場は3時間で600円。せっかく安い料金で受講できるが駐車場にお金がかかってしまうので、会員を増やすために駐車場も安ければもっと来ていただける方も多いのかなとお願いしたいところです。

事務局 受講希望が多い講座は抽選で受講者を決定しています。役員考慮はなく厳選なる抽選です。毎回受講できる方もいらっしゃれば、落選の方もいらっしゃいます。致し方ないと思っております。今すぐにどうこうできる訳ではないですが、さらに受講の枠を広げるなど検討していきます。駐車場につきましては、市民プラザに要望して参りたいと考えております。

藤田議長 何か特典があればというの、今の時流なのかなというところもございますね。公的機関にも求められる、時代の流れです。どこまで対応できるかは今後の検討課題となります。さて、学友会のけやきは何人で編集されていますか。

永井委員 現在は5人です。

藤田議長 役員の成り手がいない中、けやきはすばらしいです。

永井委員 5人で取材したものを集めたり、新しいコースを取材して皆さんに紹介したり、特別講演会について簡単に用紙にまとめたり、写真を入れたりしています。活動は楽しいですが時間のことや集合することが必要であったり、メールでやり取りもできるようになってきているので以前ほどの負担はないですが、メンバーが増えたら負担が減るかなと思います。褒めていただきやる気が出ました。

大西先生 けやきについては、今年度は執筆をいたしまして、中身をつぶさに拝見したのは今回初めてでした。

藤田議長 色んな方に読んでいただきたいですし、今後も継続していただきたい。

木本委員 土曜日の利活用をしていただきたい。色んな問題があると思いますが、現役世代を引っ張ってくる1つの手段かと思います。先ほどのアンケートの話で、自由記述でというのは受講生から取っていますよね。現役世代から、こんなコースを開いてほしいというアンケートのやり方はいかがでしょうか。異なった目線で何か出てくるかなと思います。

市には色々な機関があり、講師も博物館や民族民芸村、美術館や埋蔵文化財センター等から入っていらっしゃる。これは大きな財産です。富山ファンを作る、次世代の若い人達、現役世代を含めた、将来の担い手育成も関わりを持つ、そのような人たちを育てていくような講座もいいかと思います。学友会もそうですが、市民学習センターと地域住民（受講者）をつなぐコーディネーター役にあたる方々が動いてくれるとボランティアなど色々つながると思います。

民俗資料館では、50年前の道具である、アナログ電話や火鉢、かまど等が展示してあり、認知症予防に活用している事例もあります。脳と身体の健康という新規講座を開設とのことですし、理系の講座を作って欲しいという話もございます。その分野間を超えた、或いは、その分野間の競合を図るような講座の在り方にも目を向けていく必要があると思っています。

藤田議長 民族民芸村では、認知症予防や脳トレということで、新しい学芸員が入り力を入れているところです。全国的な博物館の動きになりますが、生活史の資料が出てきているという流れがあります。

ニーズに応える講座を考えていかなければならないです。現役世代についてはスタッフの働き方、仕組み、講座の設け方を変えてからプログラムを考えていかなければならない。リカレントの時代であり、どこに力をいれていくか、どのように学びの場を提供していくか、どこを強みとして出していきたいか。市民に周知できることが力になっていきます。また、学友会活動にもつながると考えます。

奥野委員 市民大学があるということをお知らせするところから始まると思います。

例えば同じ富山市の生涯学習、市民プラザでなく、TOYAMA キラリで開催するなど、いつもとは少し違う展開をして富山市民大学があると分かってもらうというのはいかがでしょう。民族や昔の暮らし、まちづくりに関心を持つ若者がいるので、見せ方をかえて、市民大学の存在を知らせることができる。その先に受講するかしないか。こんな講座が欲しいです、受講するかしないか分からない方に聞いて結局受講しなかったということもあり得ます。確実に受講される方に向けてということも大事ですが、変化球的展開があってもよいかなと思います。

藤田議長 TOYAMA キラリ、市立図書館本館とガラス美術館では市民に対する講座を色んなご意見をお聞きし実施しています。富山大学や富山県立大学など色んな形で講師が登壇する、それ

ぞれが色々と頑張っておられます。そのネットワーク、どのように横の連携をとっていくか大切なことですね。昨年話題になりました「ほとり座」、民間で若い方がされているところに富山大学の先生が関わっていらっしゃる。そこで連携取れないかという話もありました。情報共有して色々なところに情報を伝えていく、何より信頼があって強いのは口コミだそうですが、こんないいものがあるとひとつひとつ伝えていきたいですね。受講生が受講生を引っ張ってくる、私たちが足元でそれぞれPRしていくことで、つながっていくと思います。それでは、ご意見は、出尽くしたように思いますので、本日の議事を終了いたします。